

ほろにかが

平成29年5月15日
全国卸売酒販組合中央会

「高い志と良識ある行動」

北陸支部長 荒木 章

日本は瑞穂の国と言われます。

弥生時代から日本は稲作によって食料の安定確保が可能となり、経済の発展・人口の増加に繋がりました。

また、稲作を通して勤労精神・循環思想、自然崇拝の精神文化を醸成してまいりました。

ラジオ番組『ちょっといい話』

『稲作は雪解けの豊かな水を利用して種まきをし、雨の多い時期に田植えをします。夏、試練が訪れる。日照りにより水が枯れ、地面がひび割れの状況に見舞われます。稲は環境変化にビックリし、水分と栄養を取ろうと地中深く根を伸ばします。丈夫な根張りは、結果、秋の豊かな稲穂をつけても倒伏しない丈夫な稲となります。』

『今も稲作農家では夏の一定期間、水の供給を止めて地割れをさせます・・・』

環境の変化・試練は、未来の準備をさせるために必要不可欠と言い表しております。

本年6月より酒税法等の一部改正法が施行されます。

これまでの行政指導の範疇から、罰則もある法律となりました。

先日、宅配業者の運賃値上げが発表されましたが、消費者も好意的に理解を示しております。人手不足・ドライバー不足・社会のライフラインを担っているのは私達も同じです。

今回の法改正は酒類産業にとって大きな環境変化であり、本来の適正取引・適正価格に改善するための大きなチャンスでございます。

将来に希望が持てる酒類産業にするためにも、メーカー・卸・小売が一丸となって取り組んでゆかねばなりません。

目先の利を求め、他社の商いを掠め取る様な品性を欠く行動は厳に慎まねばなりません。

私たちに求められていることは、高い志と良識ある行動です。

農業哲学者、二宮尊徳の言葉

『遠きをはかるものは富み、近くをはかるものは貧す』